

福島第一事故

向き合う青春

東京電力福島第一原発事故と向き合う福島県出身の若者らの姿を描いたドキュメンタリー映画「種まきつさぎ フクシマに向き合う青春」が、東京都中野区のポレポレ東中野で上映されている。事故当時、福島に暮らしていた高校生たちがどう故郷を思い、生きる道を選んでいたかを記録した映画。三十年前にヒキニ事件を調べる高知県の高校生たちの映画も撮った森康行監督(右)は「見る人が、自分分は福島の人たちとどうつながれるかを考える映画にしたかった」と語る。

(神谷円香)

「種まきつさぎ」は、原発事故の影響を伝えようと、福島県の女子高校生四人が二〇一一年につくった朗読グループの名。雪解けの季節、地元の山肌に見えるつさぎの形から名を取った。映画は四人のその後を追う。一三年にはメンバーを広げ、福島高校生平和ゼミナールを結成。東京や静岡、高知の高校生たちに「皆が県外に出ちゃって焦ってる」「友達と会えないのがつらい」と本音を漏らし、福島だからと敬遠せず「普通に接してもらえそう

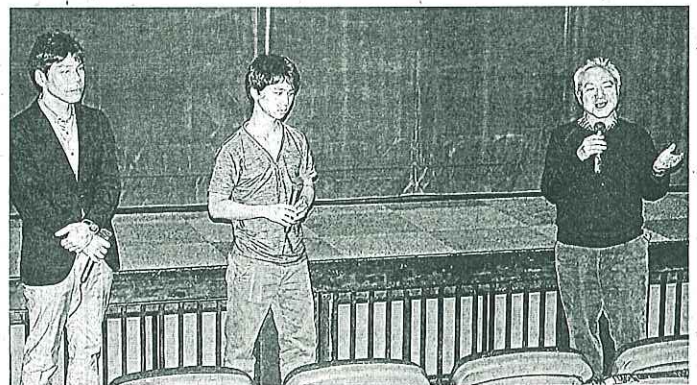
一場面、面をつぶして静かに静かに「種まきつさぎ」のトリを作った、高知の高校生たち



れしい」と語る。

四人は高校を卒業し、一人は昨春、ヒキニ事件六十周年を迎えたマーシャル諸島を訪れて現地の人たちと触れ合った。震災後から今春までに彼女たちが出会った福島の農家や漁師、高校生、福島を訪れた若者らも登場する。誰か一人が主人公ではない。森監督が願うように「人と人はどうつながり、支え合っていくのか。自分ならどう入っていけるだろう」と見る人に自問を促す内容になっている。高校生平和ゼミナールは全国各地に

高校生たちの姿を記録 東京・中野で映画上映



初日の上映後に対談する森監督(右)と若林君(左)＝東京都中野区で

あり、高校生が学校の枠を超えて主体的に学ぶ場。上映初日のトークイベントでは、東京高校生平和ゼミナールの一人、和光高校三年若林一輝君(左)が森監督と対談した。

活動で震災被災地や広島、沖縄を訪れている若林君は「皆それぞれの場で問題を抱え、解決方法も分からない。でも知らない何と何と始まらないからゼミをやっている」と語った。高校生同士なら、しがらみもなく素直に気持ち話し合えると感じる。「具体的な解決策は分からなくても、どうしたいかは話せる。理想論かもしれないが、希望を持ちたい」と願う。上映は十一月十三日まで。全国でも順次公開予定。

群馬など 再生エネ 取り組み報告

脱原発と、地球温暖化の歯止めを実現しようと、再生可能エネルギーを活用する市民や地域が取り組みを報告する「市民・地域共同発電所全国フォーラム2015」が十一月十三、十四日、神奈川県小田原市の市民会館で開かれる。

来月13日から小田原で催し

十三日は午後一時～五時四十五分まで分科会。長野、山形、群馬から「里山資源の活用」の報告のほか、自然エネルギーを通して若者の雇用や地域参加を考えるワークショップ、電力自由化時代の市民発電所の課題、再生可能エネルギーの地域での生かし方、といったテーマを話し合う。

十四日は午前九時二十分～午後零時三十分まで、エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議代表理事の鈴木悌介さんの記念講演と、パネルディスカッションがある。午後は酒匂川流域の視察(先着五十五人)もある。

主催の実行委員会は「来年から始まる電力の小売り自由化に、消費者としてどう向き合おうか構えをもつ機会になれば」と話す。

参加費は一日千円。申し込みは<http://zenkoku.saleshop.jp/>から。当日参加も可。問い合わせは、事務局長の小山田さん(電話090(70008)4455)へ。

首都圏日誌 戦後七十年を迎えた今年

を含む地域住民が起こした 闘争のよつな終戦直後の歴史

カルチャー **lture インフォメーション** 知能は敵か? 味方か? 11月4日19時～21時、日比谷図書文化館地下1階(東京メトロ丸ノ内線・日比谷線・千代田線霞ヶ関駅、三田線内幸町駅)。人工知能 (467)4716 ◆古代カマド作りと 9時30分～15時、東京 査センター遺跡庭園